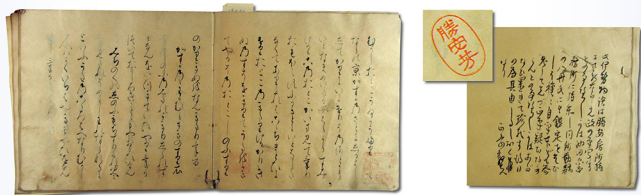


伝池田光政筆『伊勢物語』1帖



『伊勢物語』は、「在五が物語」、「在五中將の日記」という別称があるように、在原業平とおぼしき主人公の元服から始まり終焉で終る一代記風の構成となっている。

伝池田光政筆「伊勢物語」の函架番号はI-49。一帖。列帖装。金粉を散した白灰色表紙(17.6cm×18.3cm)、中央題簽「いせもの語」。烏の子紙。巻頭に「正宗敦夫文庫」の方形朱印、「勝安芳」の円形朱印。墨付一丁裏と奥書部分に「本橋〇蔵書印」の方形朱印あり。

「抑伊勢物語根源…」で始まる普通本系定家本の中の流布本の奥書であるが、流布本第二類に見られる「近代以…」 「以祖父…」の部分は併有していない。そのため、この奥書は流布本第一類と考えられる。

巻末に正宗敦夫による以下の書入がある。「此伊勢物語は、勝安房所持にて新太郎光政の筆写なりと

の事なりしかば、池田家事務所に持参し、同所勤務の八丹氏にも鑑定を乞ひしに、種々自筆本ども参考して、先づ正筆疑ひなからんとの事なりしかば、あがなひ置きて珍藏す。後日の為、其由しるしおくもゆなり 正宗敦夫(句読点・濁点を私に付す)。巻末に正宗敦夫の筆で「いせ物かたり 備前新太郎光政正筆」という紙が添付される。

池田光政(1609～1682)は、備前岡山藩藩主。江戸初期の三名君のうちの一人で、閑谷学校を開設した人物でもある。蔵書印「勝安芳」から、勝海舟(1823～1899)旧蔵書であることが知られる。勝海舟は、幕末・明治に活躍した政治家としての名が高いが、蔵書家でもあった。本書は、池田光政が筆写し、勝海舟を経て、正宗敦夫が購入したものと推測され、所持者の点からも興味深い典籍である。